

小田井遊水地



東海豪雨20年

いのちとくらしをまもる
防 災 減 災

小田井遊水地の役割

小田井遊水地は、洪水時に計画的に水を貯めて庄内川の流量を軽減する治水施設です。面積約42ha、洪水時には 約140万 m^3 (ナゴヤドーム約0.8杯分)の水を貯えることができます。普段は、庄内緑地という公園であり、人々の憩いの空間となっています。

平常時の小田井遊水地



出水時(東海豪雨時)の小田井遊水地



小田井遊水地の歴史



昔から庄内川と矢田川が合流するこの地では、右岸側に遊水帯(洪水が氾濫する所)が自然にでき洪水の勢いを和らげる役割をしていました。遊水帯のほとんどが農耕地として利用されていましたが、その後庄内川の治水計画の中で洪水時に計画的に流量を軽減する遊水地と位置付けられ、昭和53年から用地取得を行いながら囲繞堤(いにようてい)の築造に着手し昭和61年に小田井水門、昭和63年から越流堤に着手し平成元年に概成しました。

出典: 国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス